

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	自動車産業の未来、三菱ふそうの企業訪問で見たもの
報告者	国際経営学部国際経営学科 1 年 江口広希
調査日	2022 年 11 月 9 日(水) 14:00~17:00
調査先	三菱ふそうトラック・バス株式会社 本社
担当教員身分・氏名	助教 ドゥマヤス アリヤン デラロサ
CVS 担当	赤松穂佳 柿澤鞠
授業科目/学部企画名	訪問調査(「企業訪問」)
参加学生数(学年)	1 年生 10 名、2 年生 3 名
調査趣旨・目的	企業概要の説明、工場見学、質疑応答
調査結果	<p>今回の企業訪問では事前学習を通じてグループワークによる基本情報の把握、および訪問先で守るべきマナーを全体で共有したのち、神奈川県川崎市にあり、本社を併設した三菱ふそう最大のトラック工場である三菱ふそうトラック・バス株式会社の川崎製作所へ訪問させていただいた。到着後は HR talent acquisition and marketing strategy 所属の Ms. Nora Sar と資材費コントロールチーム所属の湯浅幸洋様に話を伺った。Ms. Nora Sar からは最初に世界でトラックがそもそもどのような役割を果たしているのかという話を伺い、その後三菱ふそうは 10000 人以上の従業員が勤務しており、50 以上もの国籍の方が在籍しているグローバル会社であることが分かった。また、ワークライフバランスや、スポーツ施設など従業員がより働きやすい環境作りに取り組んでいることや、三菱ふそうのこれまでの歴史から未来の方針、また 2039 年までに日本国内に投入する全ての新型車両を CO2 ニュートラル化することなど SDGs に向けた目標や、インターンシップ制度などを伺うことができた。その後実際に工場を案内してもらい、トラックの製造過程を見学させていただいた。そこで印象に残ったことは、人の手による手仕事を大切にしている姿だ。工場内に入らせていただいてすぐは、部品を機械が運んでいるところや、重い部品を持ち上げているクレーン、人を運ぶ乗り物などの機械がとても印象に残った。しかし、よく見ると実際に部品をトラックの土台に取り付ける際には人の手を使って作業が行われていた。最後の作業工程のところでも、「最終確認は人の目と耳で行います。」という話を伺った。デジ</p>

タル化が進む現代でも、本当に重要なところは人の手で行っている点。そして機械を使っている、作業の効率化はもちろん、従業員の方の健康を守る目的や、ヒューマンエラーで事故につながることを防ぐ目的で機械の力を利用して、従業員も顧客の方々も含めて、人を大切にされている会社だなと強く感じた。その後、中大 OB である湯浅幸洋様からは三菱ふそうに入社するまでの経歴を伺い、実際にグローバル環境で働くなかで苦労していることや、仕事の形態、グローバル企業であるからこそ存在する従業員の休暇の取り方などの文化の違い、日本語独特の擬音が日本人以外の社員には通じない事、昇進や部署移動のシステムの違いなど会社の事だけでなく、日本人と外国人の仕事に対する意識の違いなど実際には聞きづらい深い内容までお話を伺うことができた。今回の訪問ではふそう第一号車である B46 型乗合自動車が生誕してから 90 年という節目に実際の社員の経験を交えた説明をしていただき、インターネットでの調査では得ることができないような貴重なお話を伺う事ができたため大変楽しくまた有意義な企業訪問となった。

企業の方々との集合写真

